

「ごみは減らす、赤字覚悟の有料化は不要」

3月議会で提案された「粗大ごみの有料化」は、討論の中で問題点が浮き彫りになり、全会一致で議案から削除されました。

市の提案は、「有料化によるごみの減量」「受益者負担と税の公平化」を目的に、1品目300円から1800円の料金シールの添付を義務づけ、戸別収集するというもの。

私(黒田)は、厚生経済常任委員会で、全国的に「有料化がごみの減量に結びついていない」こと、真のごみの減量は、近年川西市でも一般ごみの減量が進み、リサイクル率は23%を超えているように、市民の環境意識の向上や市のごみ行政のあり方、企業の拡大排出者責任を追

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 **黒田みち**

市会議員団控室 TEL 740-1111 (内線4020)
直通FAX 759-1811
黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ <http://kurodamich.exblog.jp>



3月定例会

“大塩丸”の提案に異論続出

粗大ごみの有料化案は全会一致で削除

公民館有料化は延期に・・・



求めていることであると主張しました。

また、市の収支面でも①「不法投棄が増え、取り締まりを強化する」ために今でも約900万円の税金を投入②粗大ごみだけを戸別収集するための経費を試算していない③シール作成やアルバイト採用など赤字覚悟の有料化は全く必要がない・・・ことを追及しました。市民の税金を預かる市として、自治体固有の業務である「ごみ収集の無料化」こそ「公平」という言葉に値することを徹底して訴えました。

他会派委員からも「有料化には賛成だが、この案では市民の納得は得られない」と共同で「粗大ごみ有料化」の項目を削除する修正案を提出。全員一致で可決されました。

公民館有料化は延期

公民館の有料化案も提案されました。共産党議員団は、社会教育法でいう「住民の生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する」という公民館の趣旨から、無料を堅持すべきと主張。

討論の課程で、他会派から「7月1日実施」を「21年4月1日実施」に延期する修正案が提出されましたが、共産党は「延期で問題解決にはならない。公民館としての社会的・教育的使命を果たすべき」と反対しましたが、修正案は可決されました。

まったなし、北陵地域で中学校建設を 来年度予算で用地を購入

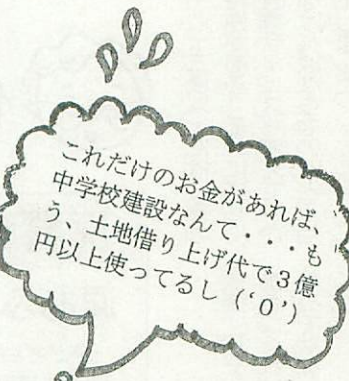
増え続けることも達

私(黒田)は、6年前から北陵地域(美山台・丸山台)での中学校建設を求め続けています。この地域は開発が続いており、毎年平均100戸ほど、こどもは40〜50人増えていきます。東谷中学校へはバスと電車で通学し、1ヶ月の交通費は約1万円という大きな負担になっています。市は、中学校の建設には「安定的に3クラスが必要」としていますが、08年度の北陵小学校では、新6年生だけが2クラスで、他学年は3〜4クラス。加えて日生中央駅前にも268戸のマンション建設も明らかになっています。

早期に計画、建設を

こどもの教育をどう保障していくのか、通学路の安全、地域の教育力など総合的に考えていかなければなりません。わずかな人数のことでも達の校区を変更すれば解決するというものでもありません。来年度予算では、中学校建設予定地の購入が計上されています。私は、こども中心に考え、早期に計画、建設することを求めています。

一方、東谷中学校地域では、東谷小でもこどもが増え続け、西畦野地域は陽明小と



これだけのお金があれば、
中学校建設なんて、
土地借上げ代で3億
円、土地借り上げ代で3億
円以上使ってるし(‘0)

やっぱり、特別扱い・・・中央北地区開発 (議会や予算委員会で明らかに)

- ・汚染土壌対策費用約2億2000万円・・・
- ・契約金額で納まらず、いくら上乗せか不明
- ・2008年度 皮革工場跡土地借上げ費用・・・
- 約1億5000万円
- ・2008年度 皮革組合への補助金・・・300万円



「まめのほろり」

明治維新後の日本の国家は、歴史の偽造による「だまし」「ごまかし」弾圧する「おどし」教育などでマインドコントロールする「ならし」の「4つのし」を組合わせた政策を貫いてきたという。(渡辺賢二氏「うたごえ新聞」)なるほど、と思う。「社会保障の財源に」を名目に値上げした消費税が、そっくり大企業減税に使われたのはその典型。

「企業の国際競争力の強化」と称して、あらゆる規制を緩和。大企業は大増益になったのに、働く側は、不安定雇用がはびこり、5人に1人が年収200万円以下のワーキングプアに。貧困と格差は、自民党・公明党の政策で拡大している。一方で、イージス艦などの軍事情に巨額をつぎ込み、またまた「社会保障の充実のため」と消費税の増税を画策している。もう、「だまされんない」もう「ごまかされんない」「おどされんない」「ならされんない」「4つのない」を貫いていく時期だ。



長寿を祝える社会 それこそが政治の責務

75歳以上切り離し差別 後期高齢者医療

後期高齢者医療制度 だれがつくったこんな制度



後期高齢者医療制度は、七十五歳以上を一律に「後期高齢者」と決めつけ「現役世代」から切り離し、まったく独立した医療保険に加入させるものです。国民皆保険制度の国では他に例がありません。

小池氏は、今まで扶養家族になっていたお年寄りの例外なく、強制的に家族みんなが入っていた保険から引き離される実態を告発し、「昔から家族と一緒に暮らしていた『母屋』から無理やり『離れ』に連れて行って、閉じ込めるようなものだ」と批判しました。

「七十五歳以上には心身の特性がある。それに応じて医療サービスも変えていかねばならない」と正当化しました。

小池氏は、政府が、後期高齢者の「特性」を「治療に時間をも手間もかかる」「認知症も多い」「いすれ死を迎える」などと規定

していることを指摘。「こんな考え方で制度をつくれば、差別医療になるのではないかと迫りました。」

しかし、舛添厚労相は「死に直面した人に、きめの細かい手当をするためのものだ」と居直る態度。小池氏は、この発言をきび

小池議員 中止・撤回求める

「戦後を必死に働いてきたお年寄りに、『晩年になったら、国から捨てられる』と感じさせる。こんな社会、いいのか」。日本共産党の小池晃議員は十四日、参院予算委員会、後期高齢者医療制度の非人間性を、お年寄りの深い憤りの声とともに告発しました。小池氏の気迫の追及に委員会室のあちこちから「いいえ」という「これはいや」という声の起りました。



反響殺到

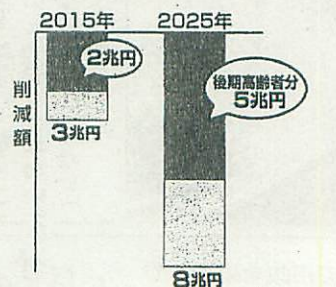
涙あふれた

「涙があふれた」「なぜ75歳で線引きをするのか、高齢者は不安でいっぱいだ」「自民党を応援してきたが、今度は共産党を応援する」——小池氏の質問をみて日本共産党本部や国会の小池事務所に激励の電話、ファクス、メールが相次ぎました。

今後は投票

富山市の男性(75)は「子どものころ『国のために死んでくれ』といわれた。今度の制度はもう一回『国のために死んでくれ』といわれているようなものだ」と怒りをぶつけ、「これからは共産党に入れる」と電話で語りました。

「後期高齢者」をわらうちにした 医療費削減(給付費ベース)



して、高齢者の医療費からまず削る。こんな政治に未来はない」と正面からたたきました。

福田康夫首相は、「医療制度は、誰にとってもいいものであってほしいが、限界がある」としつつ、「いろいろ工夫して対応していく」と述べざるを得ませんでした。

小池氏は、「四月に制度が始まる」から「見直す」では遅い。ただちに制度の四月実施を中止・撤回すべきだ」と強く求めました。

政治革新の道しるべ
真実つたえ希望はこぶ

しんぶん 赤旗

日刊●月2,900円
日曜版●月 800円